

お坊さんの移動傾聴喫茶  
カフェデモンク (Café de Monk) 参加報告

2012年7月6日(金)午後

“子どもの声が聞こえると、何か良いですね”

だれかがこんなことをボソッとお話し下さいました。

ある集会所で実施されたお坊さんの移動傾聴喫茶、カフェデモンクでの会話であります。

2011年5月から始められて通算60回を少し超えた回にあたる今回、雨がぎりぎり持ちこたえてくれた梅雨空の下、石巻市のある仮設住宅の集会所内外にて開催されました。4度目のお邪魔でありましたが、その場で感じた事も含めて、少し私見を述べたいと思います。

喫茶のマスターこと、活動の中心的人物であります曹洞宗通大寺(宮城県栗原市)の金田諦應師は、ご自身の自己紹介の際にも使われるニックネーム“ガンジー金田”と書かれた名札を作務衣の上につけられ、いろいろな方々の“声”に耳を傾けられています。何度かお話しを伺う中で、すごくアイデアをもっておられ、感性豊かな和尚さんであり、一番に被災地の方々に気を掛けておられる方だなあと度々感じておりました。

このカフェに関しても、カフェデモンクの名の由来とも言うべき以下の文章には、だからカフェデモンクという名称になったのかと分かる掛詞が示されています。

*Monk* は英語でお坊さんの事。

平穏な日常に戻るには長い時間がかかると思います。

あれこれ「文句」の一つも言いながらちょっと一息つきませんか？

お坊さんもあなたの「文句」を聴きながら一緒に「悶苦」します。

(いつも入り口に掲げられている瓦礫を利用して作られた看板より)

また集会所には、アメリカのジャズ・ピアニストであるセロニアス・スフィア・モンク(Thelonious Sphere Monk)の音色が流れているのです。これは、上記の看板と同様に、金田師の遊び心といいますか、ユーモアといいますか、考えられるところすべてに、こういった“楽しんで頂く”アイデアがちりばめられているのです。これを最初に伺った際に、まさにセンスの良さであるなあと感嘆いたしました。



(写真1：集会所の中の喫茶風景)

さて、本題に入りますと、「(今回の開催場所について) その周辺には度々寄せてもらったことがあります、ここは初めて」という誰かのお話の通り、何度かお邪魔している中で初めて、出足が少し寂しい感じがいたしました。それでも口コミなんかで、最終的には、およそ30人弱の方々がこの集会所に集まってくださいました。写真1のように、周辺の仮設住宅の集会所の中では比較的大きな集会所の一室に、いくつもの輪ができ、それぞれにそれぞれの時間を過ごしておられました。もちろん、喫茶というだけあって、コーヒーや紅茶、ジュース類など品揃えが豊富な飲み物とともに、金田師の地元からお持ち頂くケーキ、今回は笹団子まで並ぶという豪華なラインナップでありました。

冒頭の会話にありますように、小さな子どもさんを連れた若いお母さんたちも何人が訪れていて、子どもたちがきよろきよろするほど、みんながつぶらな瞳のその子どもたちに関心を寄せていました。子どもたちにとっては、少し戸惑い、いい迷惑だったかもしれませんが……。それでも、何人かのお母さんは、自身のタイミングで今回の大震災を受けて感じられた思いを、金田師をはじめとする和尚さんたちにお話しになっておられました。そのお母さんたちをよそに、下校の時間を迎える頃には、今度は少し年長のお兄ちゃんやお姉ちゃんも合流して、さながらみんなの憩いの場ようになっていたのも印象に残る場面でありました。もともと、仮設に入られた方々が暮らしておられた地域に、そのような雰囲気が存在していたかは分かりませんが、今の日本の中では確実に減少傾向にある、皆が集って良いという雰囲気を醸し出している場というのは、案外貴重なものであるかもしれません。雨がなんとか持ちこたえてくれたので、今回も屋外でのカフェコーナーは大盛況となっていました(写真2)。「暑い夏になると、ここにかき氷もいいのではないのでしょうか。」と始まる前のお話からまた楽しみが増えたかなと思いましたが、今回はそこまで暑くもなく、それぞれ快適にカフェを楽しんでおられました。



(写真2：集会所の外の喫茶風景)

「そろそろ始めましょうか!!」と、少し場の雰囲気が和んだところで、ある和尚さんがたくさんのクリアケースに収められたお数珠の珠をテーブルの上に出され、数人の参加者の方々に、お数珠作りのレクチャーを始められました。このレクチャーはとても人気で、毎回、すぐにたくさんの方々が集まってこられ、自分の分、家族の分、といくつも様々な願いを込めて、また完成すれば和尚さんに願いを込められて、世界で一つだけの完全オリジナルのお数珠が完成するわけです。もうこうなれば、ただの珠ではなくなるどころが不思議なところがあります。

それと合わせて、手のひら地蔵やお位牌なども希望者にはお配りになり、津波で家ごと全て流されてしまった方々は、本当に喜んでおられました。あまり宗教的色彩が濃くなる事を気にされて、お数珠と同様に、お地蔵さ

まを手渡される際も、金田師独特の念じ方でお気持ちを込められていたのが、とても印象的でありました。

今回は、曹洞宗管長の命を受けて檀信徒教化のために全国を巡回される特派布教師の和尚さん方もご都合を調整され、ご一緒に時間を過ごすことが出来ました。和尚さん方は皆さま、作務衣姿で、それぞれ参加者の方々と一期一会の機会を大事にされていたようでした。いろいろな情報を辿って、このように全国からお坊さんや牧師さんなどがこのカフェに結集されるのを何度か目の当たりにしていますが、個人的には良いものだなと感じています。宗教者の方々がこのようにじっくりと寄り添う機会というのが、年々減少しているように感じているからだと思います。

「お坊さんとなかなか話が出来ないので、お聞きする機会がなくて困っていたんです・・・」と、そろそろ閉店に近付いた頃に、お数珠を作っておられたある方が、外見よりお坊さんと判断されたのでしょうか、私に細々とした声で、このように口を開かれました。拝聴していると、仮設住宅での限られたスペースで、どのように御家族をお祀りしようか、またお盆を迎えるに際して、気になる事がある等、確かにあまり近辺にいる人々に何う内容でもないなと思いつつ、お数珠作りを担当されていた和尚さんにも助け舟を出していただきながら、思うところをお話いたしました。何か確認ができてホッとされたような感じで、「おばあちゃんから自分の代に任せられるようになったけど、よく分からないままで、誰にも相談ができなかったけど、今日、いろいろと聞く事ができてよかったです。本当に有り難かった。」と、有り難い言葉を残してお帰りになりました。

初めての場所でありましたが、別れ際に、何人もの参加者から、また来て下さいねとリクエストを頂戴するほどでありますから、参加された方々は、ゆっくりとしたお茶のみ時間を過ごされたのではないかなと思います。

宗教的色彩に十分配慮されている点につきましては、参加者の方から、仏教者に対する問いかけがあったり、あるいは自分の気持ちを整理されるために、表現しがたい悩みや苦しみを吐露されたりするのが、生きている人だけがその対象になるのではなく、そこに亡くなられた人も含められることを勘案すると、一般社会の宗教に対する見方を踏まえながら慎重であっても、決してそれを排除すべきものではないと感じました。これは、仏教に限らず、宗教全般に言える事かもしれませんが・・・。

少なくとも、お数珠を一生懸命に作られている姿、あるいは和尚さんからお地蔵さまを受け取られた姿、そして悩み事や辛い事を発せられる姿を何度となく拝見する限り、そこに何か救いを求め、何かに頼りたいとする思いがひしひしと感じられましたから・・・合掌。

※文章や写真には、出来るだけ個人が特定されないように配慮したため、分かりにくい曖昧な表現を使用している場合がございます。趣旨をご理解頂き、ご了承いただければ幸いです。

文責：森田敬史